

木と生きる幸福



# 住友林業グループ 持続可能な経営に向けた取り組み



## 住友林業の歴史～現在まで約330年～

江戸

明治

大正

昭和

平成

令和

1868

1912

1926

1989

2019



2041

2011

1975

1955

住宅を販売



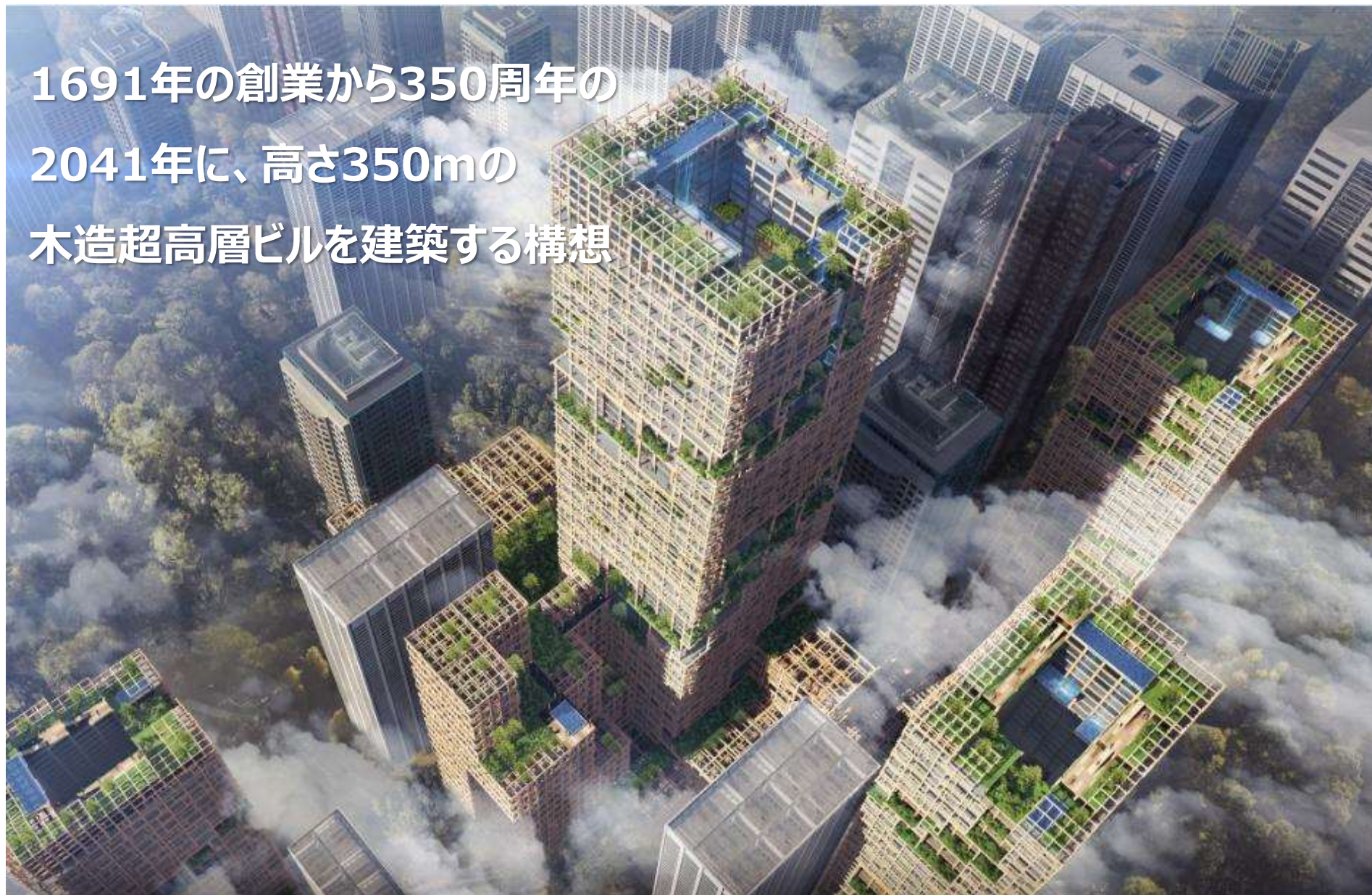
1691

創業(銅山の開坑)

1894

大造林計画

1691年の創業から350周年の  
2041年に、高さ350mの  
木造超高層ビルを建築する構想



画像提供：住友林業・日建設計

# 会社概要

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 社名    | 住友林業株式会社        |
| 創業・設立 | 創業1691年 設立1948年 |
| 資本金   | 32,672百万円       |
| 従業員数  | 連結：19,159名      |
| 関係会社  | 195社            |

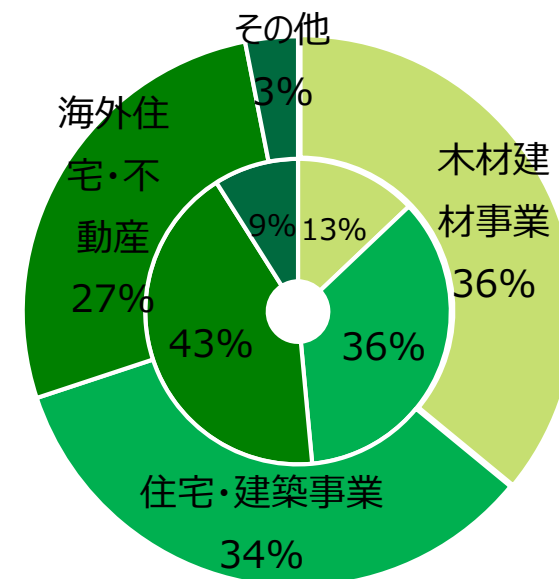
2019年3月31日現在

## ■ 経営理念

住友林業グループは、公正、信用を重視し社会を利するという「住友の事業精神」に基づき、人と地球環境にやさしい「木」を活かし、人々の生活に関するあらゆるサービスを通じて、持続可能で豊かな社会の実現に貢献します。

## ■ 行動指針

- ・お客様の感動を生む、高品質の商品・サービスを提供します。
- ・新たな視点で、次代の幸福に繋がる仕事を創造します。
- ・多様性を尊重し、自由闊達な企業風土をつくります。
- ・日々研鑽を積み、自ら高い目標に挑戦します。
- ・正々堂々と行動し、社会に信頼される仕事をします。



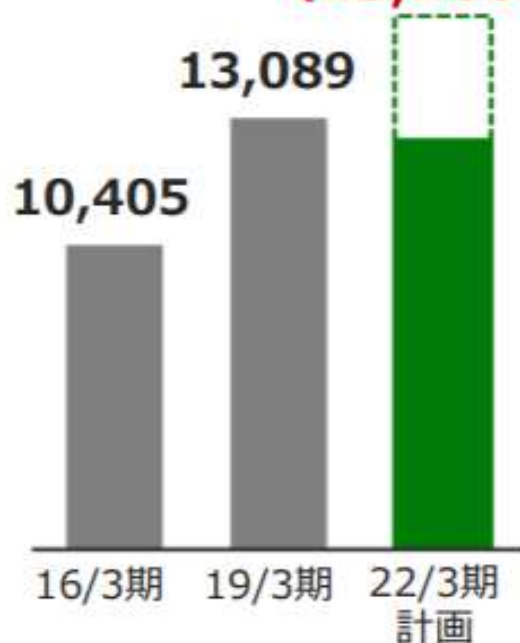
**売上高 13,089億円**

# 業績目標

さらに一段上のステージへと飛躍するための未来志向の戦略を各事業で推進。また、資本効率を高めつつ自己資本の充実も図る。

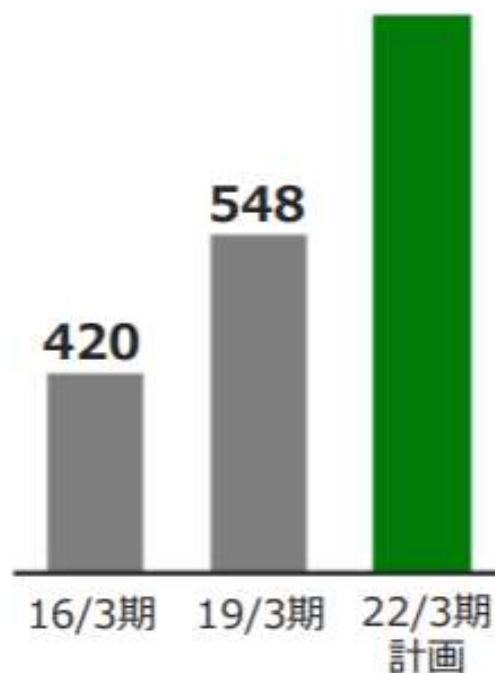
## 売上高

**12,600**億円  
(15,200※)



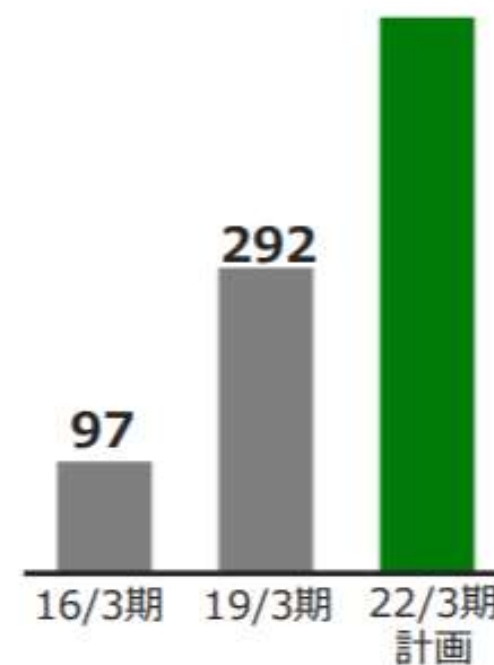
## 経常利益 (数理差異除く)

**850**億円



## 当期純利益

**480**億円



## 自己資本利益率 (ROE)

**10%以上**

※「収益認識に関する会計基準」等を適用する前の参考売上高

## 未来志向のもと、新たな事業の創造と育成を推進

### 《 4つの基本方針 》

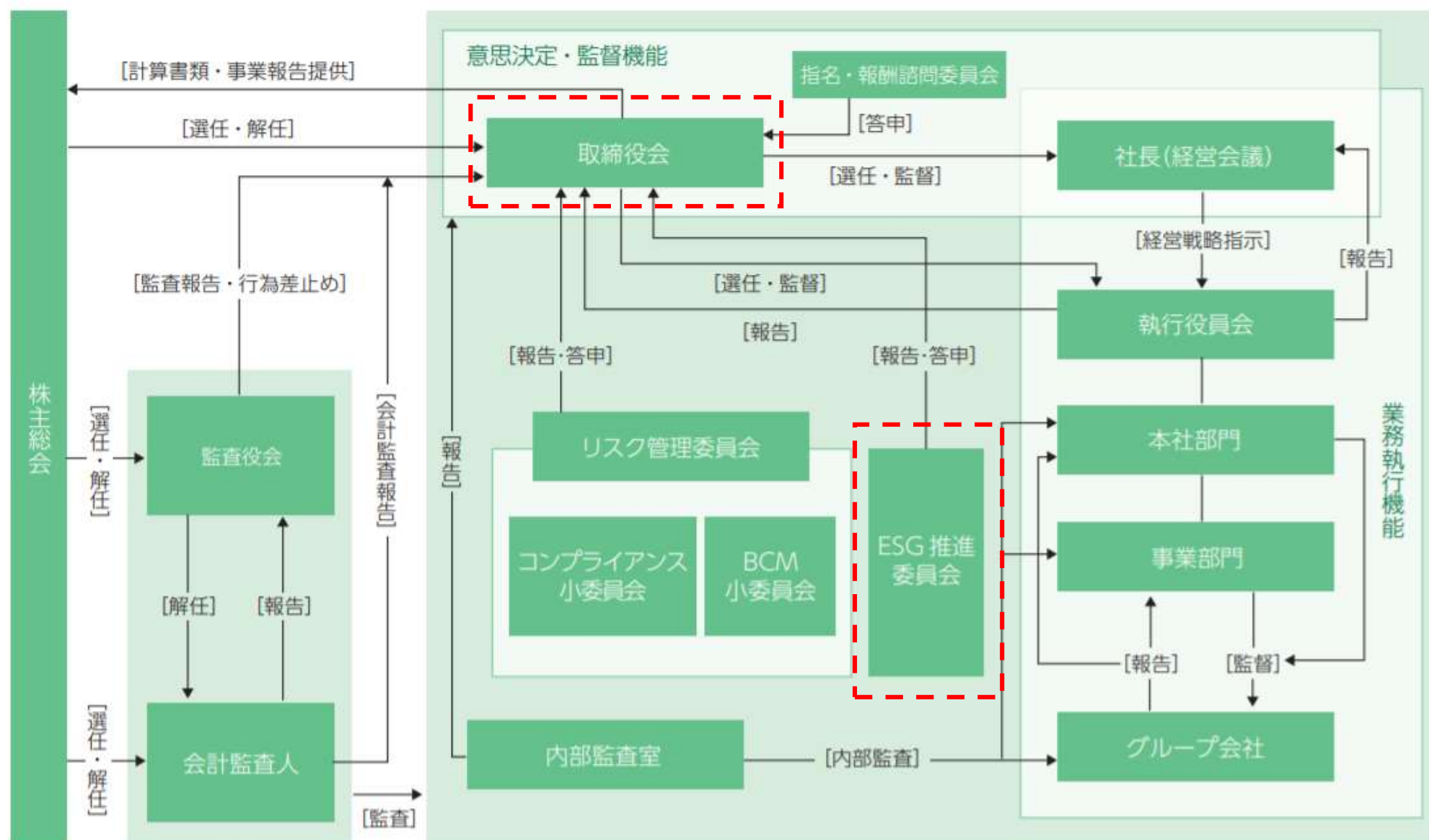


変化する時代の中で社会課題の解決に取り組み、4つの基本方針に基づいて経営基盤の強化と未来に向けた事業のさらなる推進を目指す。

# マテリアリティと15項目の目標

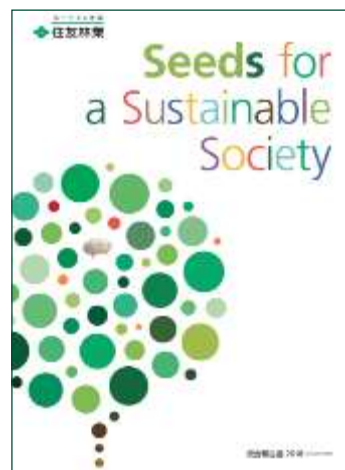
| 重要課題                                    | 目標                                                                                                                          | 貢献するSDGs                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 持続可能性と生物多様性に配慮した木材・資材調達の継続              | 1 地球温暖化対策や生物多様性保全と両立する山林経営<br>2 持続可能な森林資源の活用拡大<br>3 持続可能なサプライチェーンの構築                                                        |                                                                                          |
| 安心・安全で環境と社会に配慮した製品・サービスの開発・販売の推進        | 4 環境配慮型商品・サービスの拡大 ※脱炭素社会に向けた温室効果ガス排出量削減（S B T：スコープ3）を含む<br>5 生物多様性に配慮した環境づくり<br>6 社会課題の解決に貢献するビジネスの拡大<br>7 持続可能で革新的な技術開発の推進 |       |
| 事業活動における環境負荷低減の推進                       | 8 脱炭素社会に向けた温室効果ガス排出量削減（S B T：スコープ1・2）<br>9 資源保護および廃棄物排出削減とゼロエミッションの達成<br>10 水資源の節減・有効利用                                     |                                                                                                                                                                         |
| 多様な人財が能力と個性を活かし、いきいきと働くことができる職場環境づくりの推進 | 11 多様な発想と働きがいで活力を生む職場づくり<br>12 若年層育成と高齢者活用による人財の確保<br>13 働きかた改革による長時間労働の削減<br>14 労働災害事故の撲滅                                  |                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 企業倫理・ガバナンス体制の強化                         | 15 リスク管理・コンプライアンス体制の強化                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

## 気候変動に関するガバナンス体制



# 非財務情報の対外開示と外部評価

## 統合報告書発行



## CSRウェブ開示



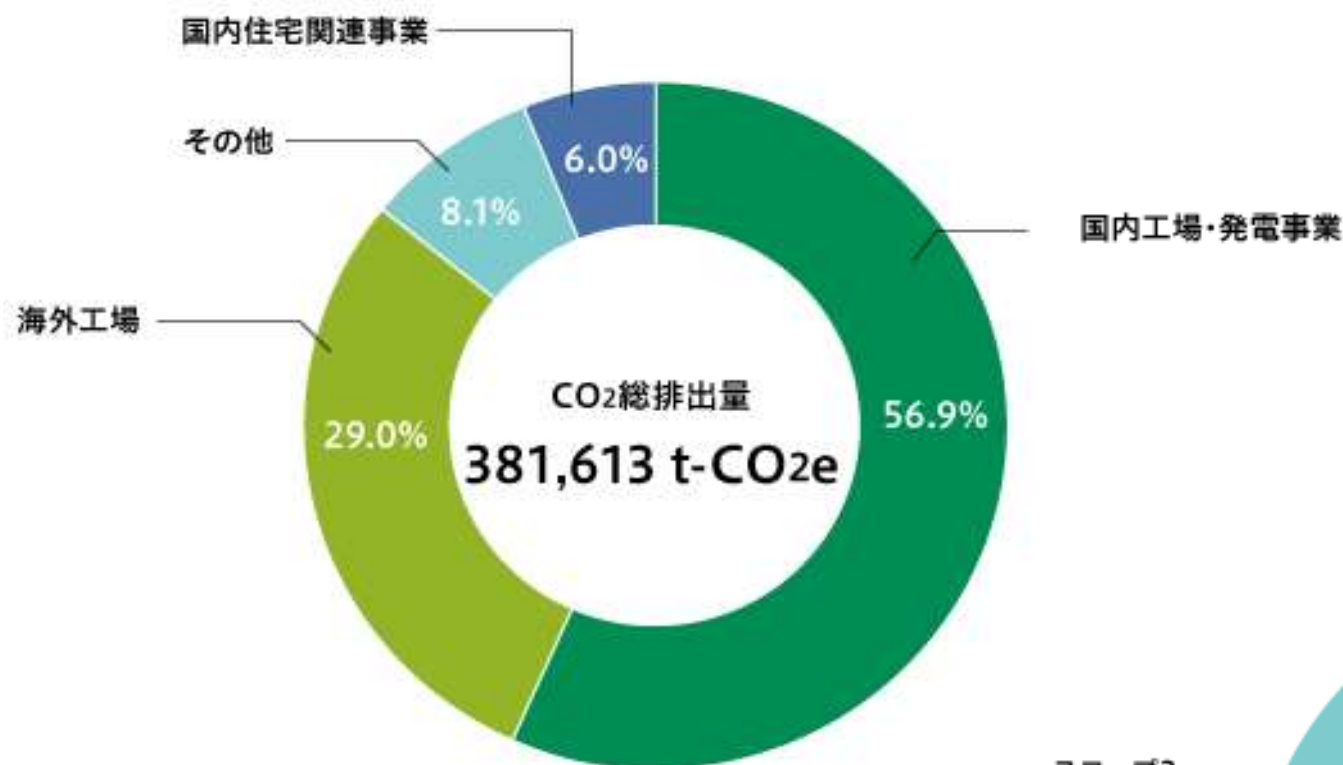
## GPIF ESGインデックス



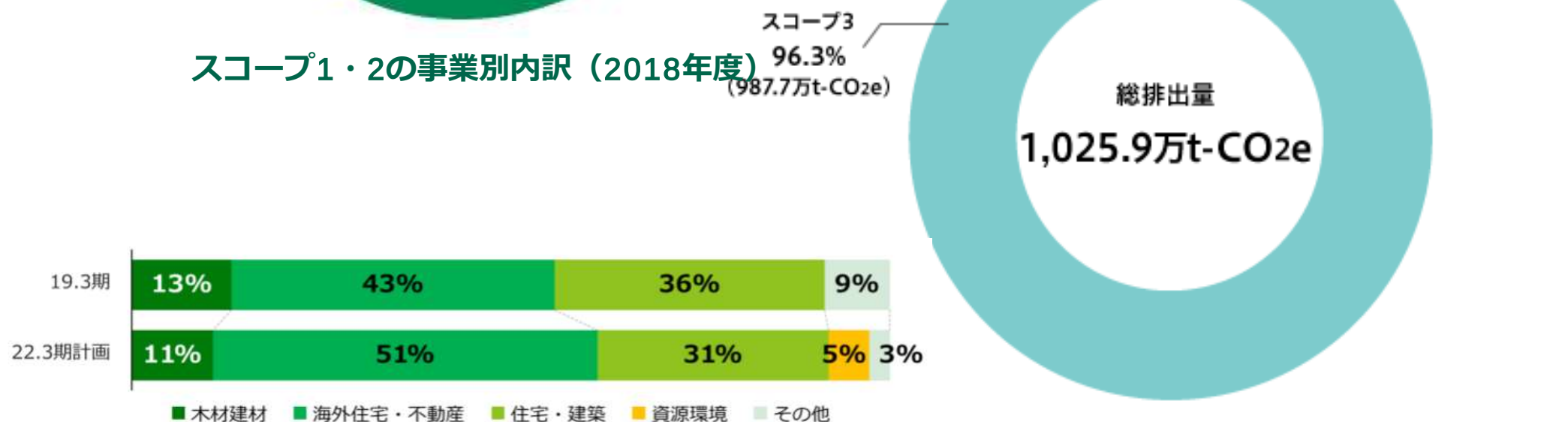
## イニシアティブへの参加・賛同



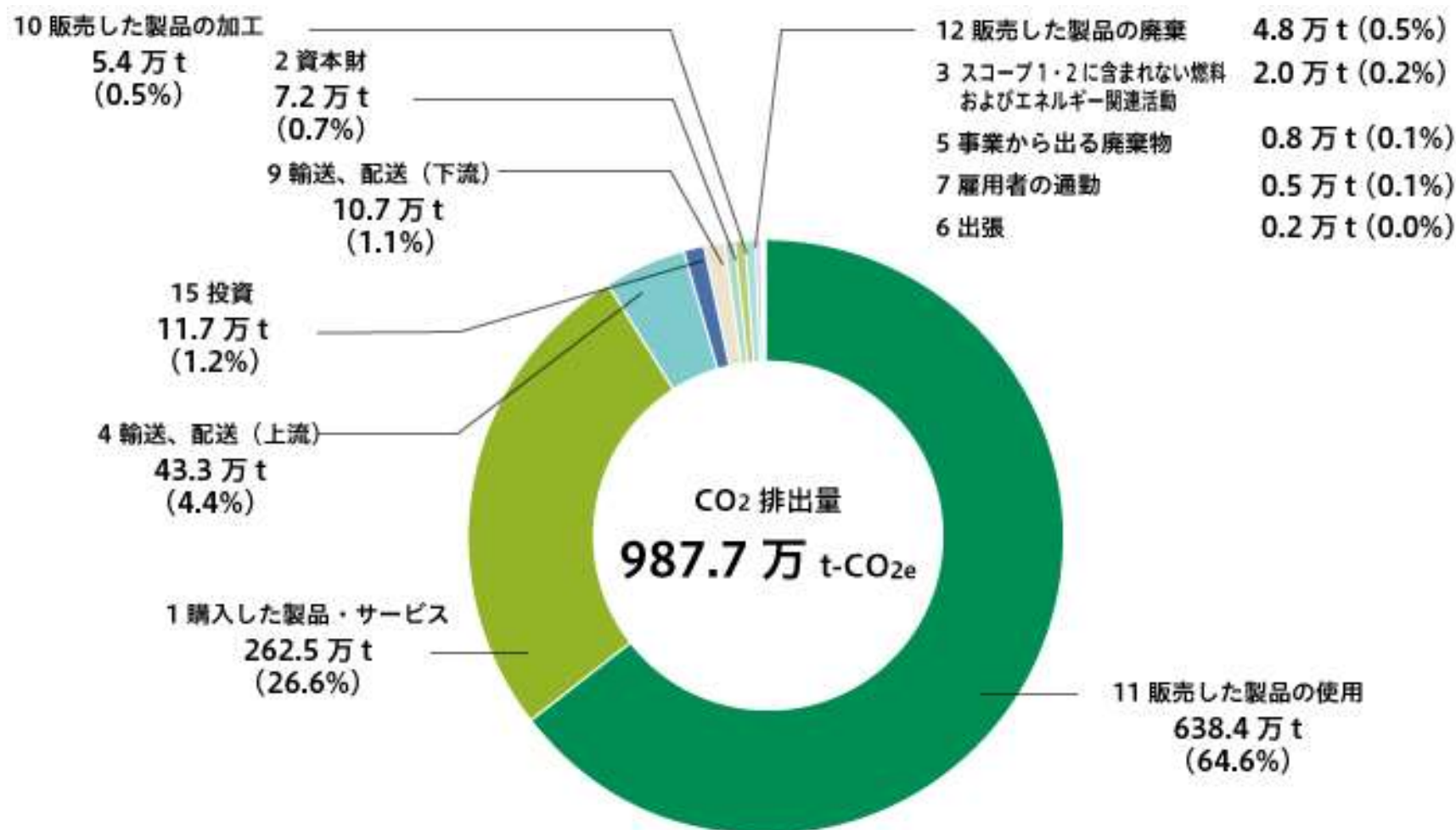
# 住友林業グループのCO<sub>2</sub>排出量内訳



## スコープ1・2の事業別内訳（2018年度）



# 住友林業グループのCO<sub>2</sub>排出量 Scope 3 内訳



スコープ3のカテゴリー別排出量（2018年度）

# 住友林業グループのCO<sub>2</sub>削減目標

## 2018年7月:SBT目標認定



基準年: 2017年(基準年)比  
目標年:2030年

① スコープ1・2: 21%減

② スコープ3: 16%減

## ZEH ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス



■消費エネルギーを減らし、つくったエネルギーでまかなう家



## 国内外での植林事業

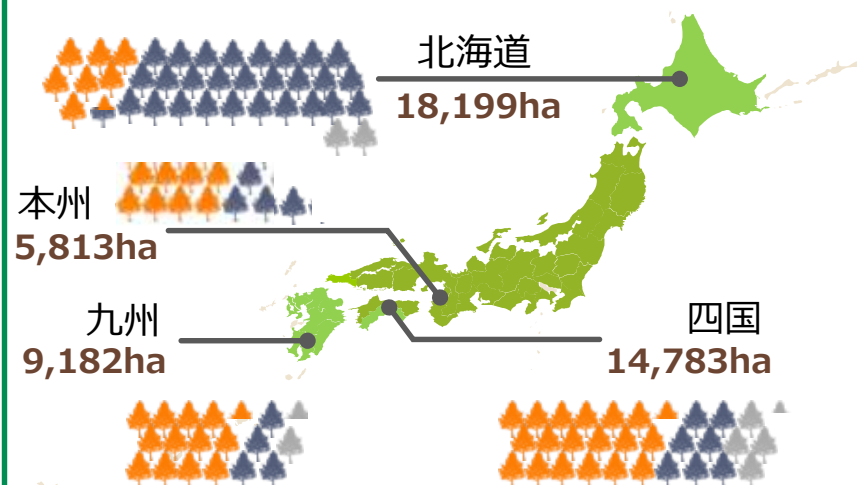
## 日本国内の社有林

47,977ha

2018年3月末時点



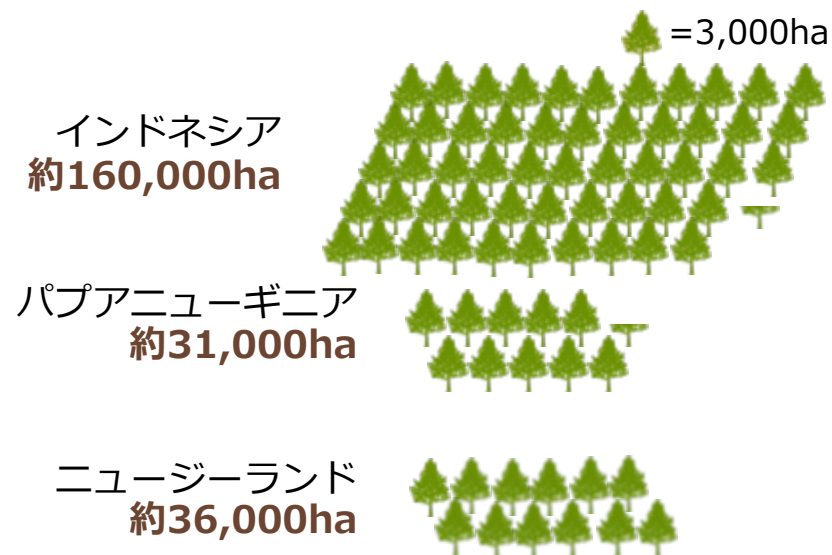
人工林 天然林 その他 =500ha



## 海外の植林管理保有面積

約230,000ha

2018年3月末時点



# 木材建材事業における木材調達と世界の流れ

- 2000年 九州・沖縄サミット開催（違法伐採対策の重要性）
- 2005年 G7グレンイーグルスサミット 違法伐採への対策を決議
- 2005年 木材調達基準を制定
- 2006年 **グリーン購入法に木材・木材製品が追加**  
( 合法性証明制度、林野庁ガイドライン等が整備される)
- 2007年 木材調達理念・方針を公表
- ~2009年 輸入材の合法性を確認
- ~2012年 合法性以外に環境や社会への配慮を確認
  - 2008年 米国レイシー法改正
  - 2010年 EU木材規制法可決（2013年施行）
  - 2014年 豪州違法伐採禁止法施行
- 2015年 「木材調達方針」から「調達方針」へ
- 2016年 **クリーンウッド法成立（2017年5月20日施行）**
- ~2020年 森林認証材の普及促進など

## 植林木・認証材主体の調達販売体制の構築



植林ファルカタ材



きこりんプライウッド

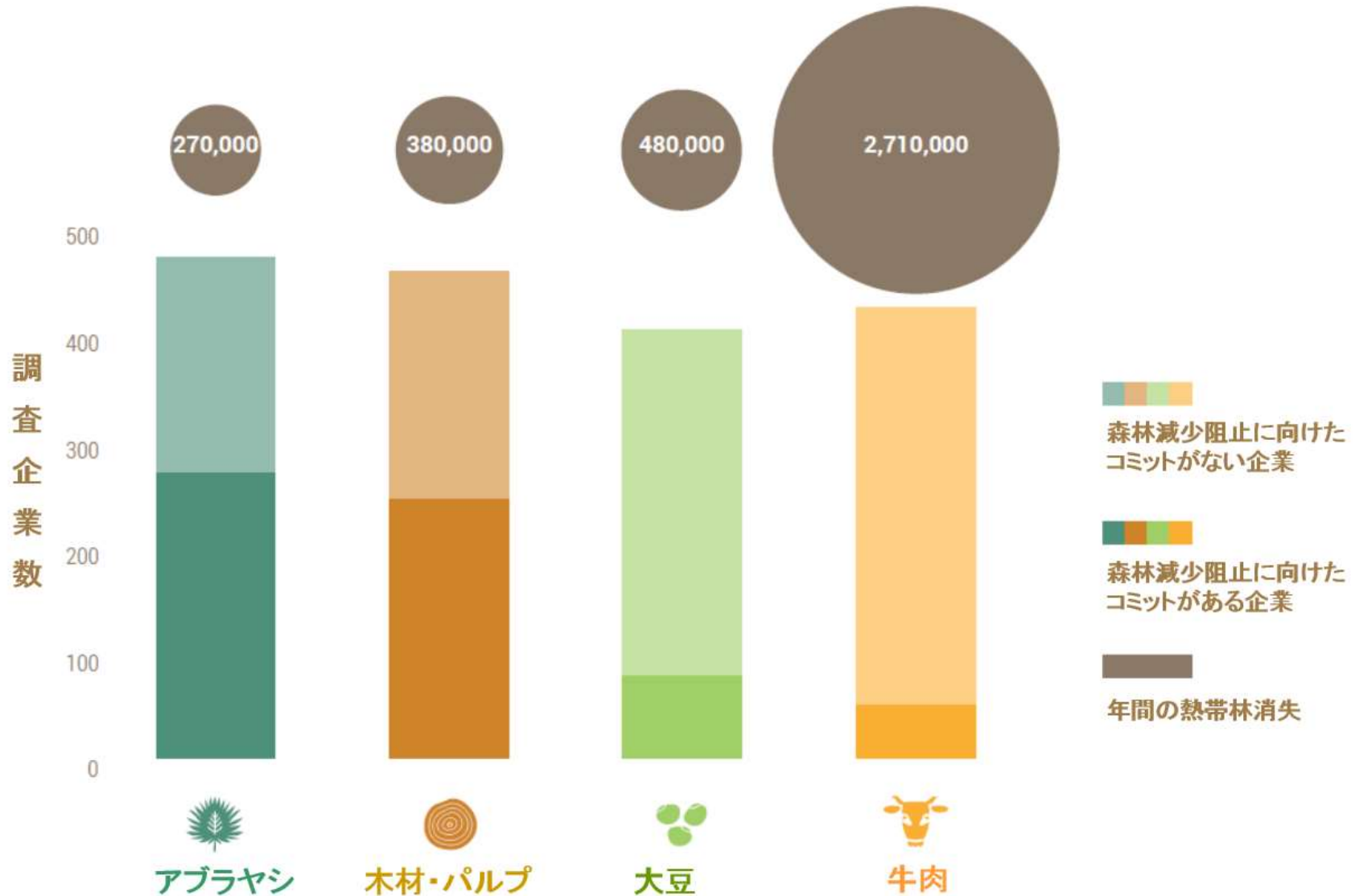


植林地

# きこりんプライウッドの取り組み



## 森林減少の原因は違法伐採ではない???



\* Supply Change: Tracking Corporate Commitments to Deforestation-Free Supply Chains, 2016"

# きこりんプライウッド／植樹の成果



PT. KUTAI TIMBER INDONESIA  
Plywood, Particle Board & Wood Industry

## 2009年に実施した環境植林地(ブロモ国立公園)の様子

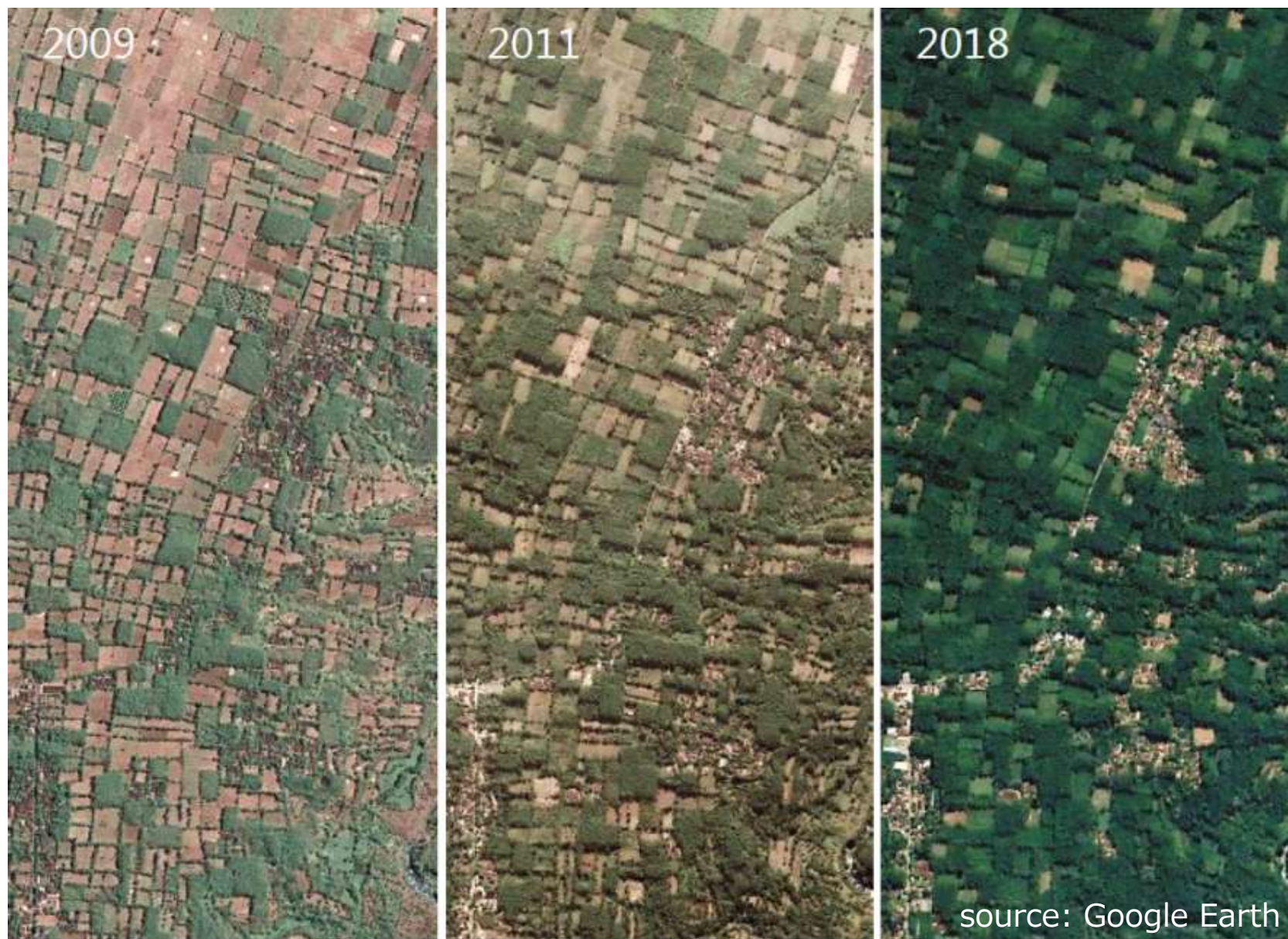


植林前の様子：2004年の衛星写真

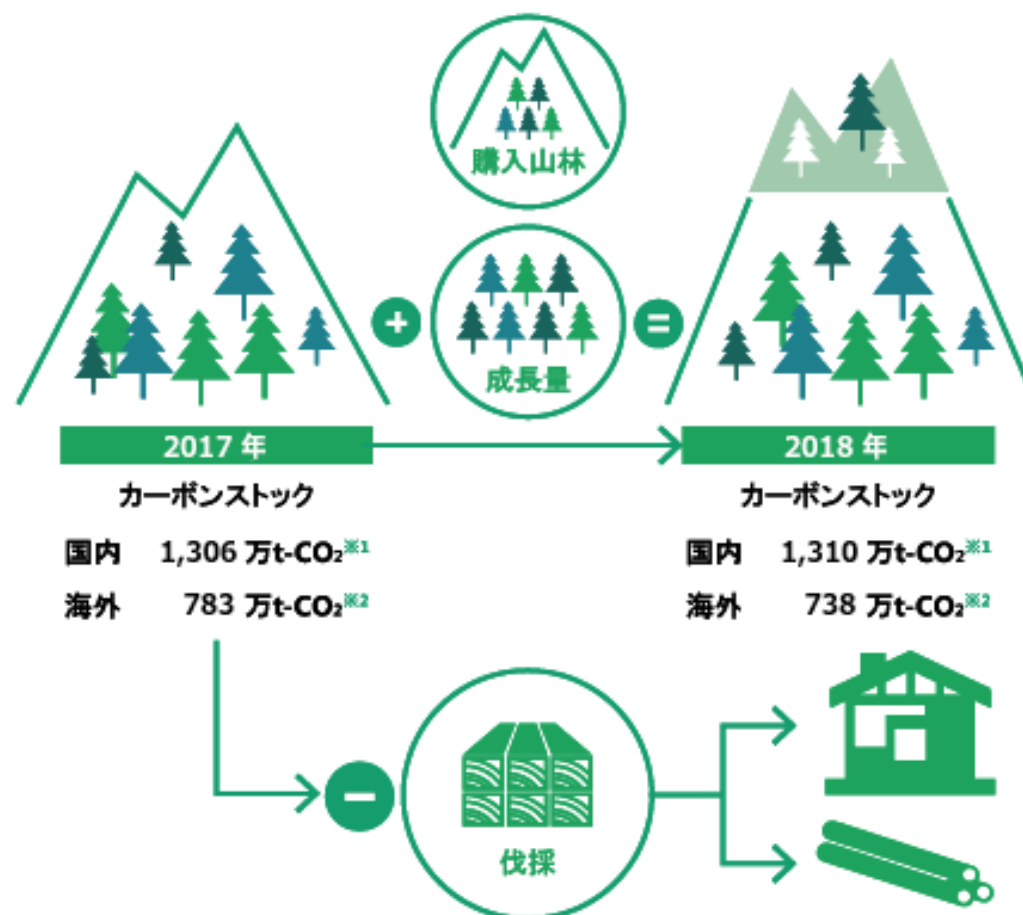


植林後の様子：2017年の衛星写真

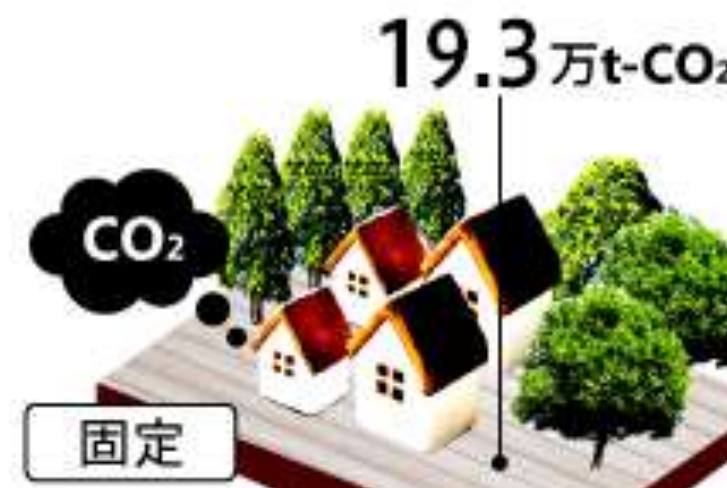
# インドネシア ジャワ島での社会林業の発展



# 国内外の山林、および住宅によるカーボンストック



- ※1 国内は、当該年度期末におけるカーボンストック
- ※2 海外は、当該年期末におけるカーボンストック



2016年度の国内の住宅建設や木化事業に使用された木材によるカーボンストック

# グレイインフラからグリーンインフラへ

木と生きる幸福



# シナリオ分析の実施（環境省支援事業）

## シナリオ分析の進め方

1

### ガバナンス整備

戦略策定やリスク管理プロセスにシナリオ分析を組み込む。関連する取締役会等の監視を行う。  
巻き込むべき内外のステークホルダーと巻き込み方を特定する

2

### リスク重要度の評価

市場変化・  
技術変化

評判

政策と法律

物理的  
リスク

現在および将来に想定される、  
組織が直面する気候変動リスクと  
機会は何か？それらは将来に  
重要となる可能性があるか？  
組織のステークホルダーは  
関心を抱いているか？

いかなる変数を  
対象とするのか？

3

### シナリオ群の定義

組織に関連する  
移行リスク・物理的  
リスクを包含した  
複数のシナリオ

いかなるシナリオ（と物語）が  
組織にとって適切か？  
入力変数と仮定、分析手法を  
検討する。いかなるシナリオを  
参照すべきか？

いかなるシナリオを  
設定するのか？

4

### 事業インパクト評価

事業インパクト：

- ・ 投入コスト
- ・ 事業コスト
- ・ 収益
- ・ サプライチェーン
- ・ 営業停止
- ・ タイミング

それぞれのシナリオが組織の  
戦略的・財務的ポジションに  
対して与える影響を評価する。  
感度分析を行う

何を、どの位の広さ・  
深さで試算すべきか？

5

### 対応策の定義

対応策

- ・ ビジネスモデル変革
- ・ ポートフォリオ変革
- ・ 能力や技術への投資

特定されたリスクと機会を  
扱うために、適用可能で  
現実的な選択肢を特定する。  
戦略的・財務的な計画に  
いかなる修正が求められるか？

どこまでの対応策を  
検討するか？

支援事業で実施

6

### 文書化と情報開示

プロセスを文書化する。関連組織とコミュニケーションをとる。主要な入力変数、仮定、分析手法、結果、  
とりうる経営上の選択しについて、情報開示する準備を整える

## 気候変動に関する森林保護政策、森林火災・虫害の増加等が影響を及ぼす

|        | リスク項目                                        | 木材・建材事業 事業インパクト                                                                                                                                                                                                                       | 評価      |
|--------|----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 移行リスク  | 各国の炭素排出目標/政策                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>各国の炭素排出政策に<b>森林吸収源対策に関する政策</b>が組み込まれた場合、木材の供給量が減り、<b>木材調達コストが増加</b>する</li> </ul>                                                                                                               | 大       |
|        | 森林保護に関する政策                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>伐採税等の<b>木材調達規制</b>、<b>森林保護・絶滅危惧種生息地に対する規制</b>が強化されることで、伐採税・伐採手数料が上昇し、<b>木材調達コストが増加</b>する</li> </ul>                                                                                            |         |
|        | 再エネ等補助金政策                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li><b>再生可能エネルギー補助金政策</b>により<b>木質バイオマス事業</b>が推進され、販売増加による<b>売上増加</b>が考えられる。一方、補助金制度がなくなった場合売上減少の懸念もある。</li> </ul>                                                                                  |         |
|        | エネルギーミックスの変化                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>各国の<b>持続可能基準にバイオマスが組み込まれた場合</b>、<b>木質バイオマス・木材チップ</b>の需要が拡大し、<b>売上が増加</b>する。一方、木質バイオマスの需要拡大により<b>バイオマス事業の燃料(木材トップ)コスト</b>も増加する</li> </ul>                                                       |         |
|        | 温暖化規制による経済活動の停滞                              | <ul style="list-style-type: none"> <li><b>温暖化の規制により建設自体が抑制された場合</b>、<b>木材建材の需給が低迷し、売上が減少</b>する</li> </ul>                                                                                                                             |         |
| 物理的リスク | 平均気温の上昇                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>平均気温の上昇により<b>森林火災・樹木の病気・害虫等の発生</b>による木材への悪影響により、木材の供給量が減り、<b>木材調達コストが増加</b>する</li> <li>一方、<b>CO2増加、平均気温上昇、降水量増加</b>により<b>成長期が長期化</b>し生産性が向上するため、木材の供給量が増え、<b>木材調達コストが減少</b>する可能性もある</li> </ul> | 大       |
|        | 降水・気象パターンの変化                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>降水量の変化により<b>水力発電所からの送電が途絶</b>した場合、<b>工場が操業停止</b>し製品供給量が減るため、<b>売上が減少</b>する</li> <li>降水・気象パターンの変化により<b>植生が変化し木材調達地域が変化</b>するため、サプライチェーンへ影響を与え、<b>木材調達コストが増加</b>する</li> </ul>                    |         |
|        | 異常気象の激甚化                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>嵐・サイクロン・洪水等の異常気象の激甚化が起こり、<b>工場の操業停止による売上減少、森林資源の減少による木材調達コストの増加</b>が発生する</li> </ul>                                                                                                            |         |
| その他    | 重要製品/製品価格の増減、次世代技術の進展、投資家の評判変化、再エネ・省エネ技術の普及等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>AIやIoTの導入による資材輸送コスト・工場稼働コストの削減</li> <li>省エネ製品・高断熱材の取り扱い増加による再エネ向け木材・建材の販売増加 ...等</li> </ul>                                                                                                    | 中<br>~小 |

森林保護・伐採規制に関する政策への対応や、物理的リスクによる森林資源の変化が財務上大きなインパクトをもたらす

## 住宅に関する政策に基づく売上変化、異常気象による工期の遅れ等が影響を及ぼす

|        | リスク項目                                               | 住宅・建築事業 事業インパクト                                                                                                                                                                                                                | 評価      |
|--------|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 移行リスク  | 各国の炭素排出目標/政策                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>各国の炭素排出政策に<u>森林吸収源対策に関する政策</u>が組み込まれた場合、木材の供給量が減り、<u>木材調達コスト</u>が増加する</li> </ul>                                                                                                        | 大       |
|        | 森林保護に関する政策                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>伐採税等の木材調達規制、<u>森林保護・絶滅危惧種生息地に対する規制</u>が強化されることで、伐採税・伐採手数料が上昇し、<u>木材調達コスト</u>が増加する</li> </ul>                                                                                            |         |
|        | 建築物に関する政策                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li><u>断熱性能や設備効率の基準に関する政策</u>が変化した場合、政策に対応するための<u>追加投資</u>や<u>改築コスト</u>が発生する</li> <li>ZEH普及政策等により<u>補助金制度</u>が継続した場合、<u>金銭的インセンティブ</u>が発生するほか、政策の内容によっては<u>市場競争力へ影響</u>し、売上が変化する</li> </ul> |         |
|        | 顧客の評判変化                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>顧客の森林資源の乱開発による<u>CO2排出増加への関心</u>が高まった場合、消費者嗜好が<u>森林認証材</u>使用に傾き、より透明性の高い木材の調達が必要となるため<u>調達コスト・調達ソース</u>が変化する</li> </ul>                                                                 |         |
| 物理的リスク | 異常気象の激甚化                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模な風水害等の自然災害が発生した場合、<u>工期の遅れ・保有設備の復旧活動・引渡済住宅に対する安全確認・建築請負物件等の完工引渡の遅延等</u>により、<u>建築コスト</u>が増加する</li> </ul>                                                                              | 中<br>~小 |
| その他    | 再エネ等補助金政策、エネルギーミックスの変化、投資家の評判変化、化石燃料補助金制度、平均気温の上昇 等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電システム等の補助金制度による金銭的インセンティブの増加</li> <li>ダイベストメントの動向が加速し、環境経営を実践していない企業への風当たりが強くなる</li> <li>補助金の変化により再エネ・その他エネルギー需要が変化し、操業コストに影響を及ぼす...他</li> </ul>                                    |         |

森林保護・建築物に関する政策の変化や、異常気象の激甚化による追加コストの発生が財務上大きなインパクトをもたらす

# 1 【主要パラメータ: 火災発生割合】

気温上昇の影響により火災が増加。2℃、4℃ともに多大な影響が出てくる

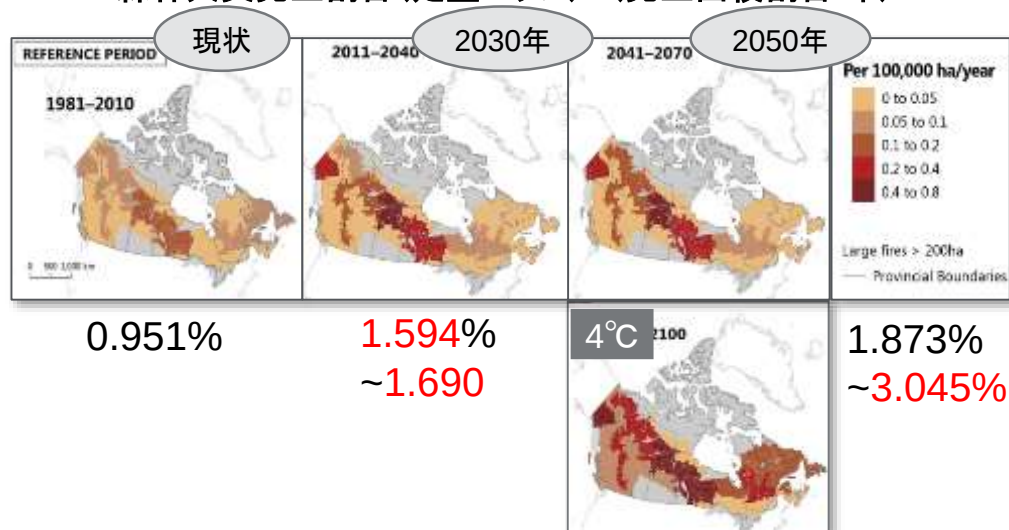
## 科学的知見での予測



### カナダにおける森林火災発生率

|       | 発生頻度(定性)                     |
|-------|------------------------------|
| 現状    | 大陸中央部で発生                     |
| 2030年 | 大陸中央部で<br>森林火災が <b>大規模発生</b> |
| 2050年 | <b>北西部でも<br/>森林火災発生が増加</b>   |

### 森林火災発生割合(定量マップ)(発生面積割合/年)



(出所) Natural Resources CanadaのForest Change indicators “Fire regime”RCP2.6シナリオより抽出

## 森林関連企業の認識

### CDPにおける気候変動リスクの回答

| 記載企業             | コメント(一部抜粋)                                                     |
|------------------|----------------------------------------------------------------|
| STORAENSO<br>UPM | <b>森林火災のリスク上昇</b> 、調達先の北西ロシアではまだ発生していないが <b>将来リスクになる</b> (UPM) |
| Brambles         | <b>予期せぬ竜巻、火災、地震などの自然災害による影響</b> (Brambles)                     |

### 世界企業の森林火災リスク認識

- STORAENSO: 森林関連商品業者で世界30カ国以上で事業展開しているグローバル市場のリーダー的存在
- UPM: 世界13カ国に生産拠点をもちバイオと森林産業を融合した事業を展開
- Brambles: 世界60カ国以上で事業展開をしているサプライチェーンロジスティクス企業

世界的森林企業が  
気候変動による森林火災の増加を認識

(出所) CDP回答

## 4°Cでは物理リスク(森林火災)による財務影響への対応が必要

### 4°Cシナリオ

- 森林保護・建築物（ZEH）に関する規制は現状維持
- 森林火災発生範囲割合は1.594%（火災発生範囲割合/年）
- 集中豪雨が増え、工期の延長により建設コストが増加
- 日本のバイオマス発電普及率は3.7%と想定

|               | 事業インパクト項目         | 評価(億円) |
|---------------|-------------------|--------|
| 2030年<br>成り行き | 森林保護による木材調達価格上昇   | XX     |
|               | 高機能ZEH未対応による機会損失  | XX     |
|               | 森林火災による木材価格上昇     | XX     |
|               | 集中豪雨によるコスト上昇      | XX     |
|               | 小計                | ▲ XX億円 |
| 2030年<br>対策実施 | 森林保護に備えた木材調達先確保   | XX     |
|               | ZEH、高機能ZEH対応による機会 | XX     |
|               | バイオマス発電需要増加       | XX     |
|               | 森林火災への対応          | XX     |
|               | 合計                | + XX億円 |

## 2℃では政策変化(森林規制・ZEH)・森林火災による財務影響への対応が必要

### 2℃シナリオ

- 森林保護政策強化により自然林に対して輸出制限がされた場合（制限割合は国別の自然林割合を元に試算）を想定し、木材価格が劇的に上昇（木材原価の上昇は価格に転嫁していない）
- 高機能ZEH未対応による機会損失
- 森林火災発生範囲割合は1.690%（火災発生範囲割合/年）
- 日本のバイオマス発電普及率は4.6%と想定
- 森林火災対策として仕入れ先を全量変更すると想定

|               | 事業インパクト項目         | 評価(億円) |
|---------------|-------------------|--------|
| 2030年<br>成り行き | 森林保護による木材調達価格上昇   | XX     |
|               | 高機能ZEH未対応による機会損失  | XX     |
|               | ZEH原価の上昇          | XX     |
|               | 森林火災による木材価格上昇     | XX     |
|               | 集中豪雨によるコスト上昇      | XX     |
|               | 小計                | ▲ XX億円 |
| 2030年<br>対策実施 | 森林保護に備えた木材調達先確保   | XX     |
|               | ZEH、高機能ZEH対応による機会 | XX     |
|               | バイオマス発電需要増加       | XX     |
|               | 森林火災への対応          | XX     |
|               | 合計                | + XX億円 |

## シナリオ分析を通じた“気付き”を踏まえ、目標設定や中計の検討を強化

| 対応実施期間  | 直近のアクション案                                                                                                                                                                                                                             |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現在～数か月間 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 住友林業2030年環境ビジョン策定：<u>不確実な将来に向けて</u>、住友林業として、どういう世界観を理想とするか？</li> <li>✓ <u>2℃にアラインした</u>製品・企業CO2目標・再エネ目標の設定と外部エンゲージメント方針の策定</li> <li>✓ 世界の森林・気候変動政策の動向の情報収集、および事業の分析のための社内システムの再構築</li> </ul> |
| ～1年     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <u>複数シナリオを見据えた</u>ポートフォリオの策定（中計）</li> <li>✓ 気候変動や経営理念を踏まえた、<u>収益の維持拡大に寄与する</u>将来新規事業方針策定（中計）</li> </ul>                                                                                      |
| その他     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 政府政策のルール形成に向けた対<u>政府渉外</u>方針の策定</li> <li>✓ <u>移行・物理リスク（政策の変化、火災リスク）に対して頑強</u>なグローバルサプライチェーンの再構築</li> </ul>                                                                                   |

ご清聴ありがとうございました。

